



ちゅうおう 小倉中央小学校通信

平成30年10月29日発行 学力向上特別号

目指す児童像

- ☆自ら学び考える子ども
- ☆心身ともにたくましく健康な子ども
- ☆礼儀正しい子ども

発行所 北九州市立小倉中央小学校 小倉北区堺町二丁目4番1号 TEL 521-1079 校長 高橋秀明

本年度 全国学力・学習状況調査の結果報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

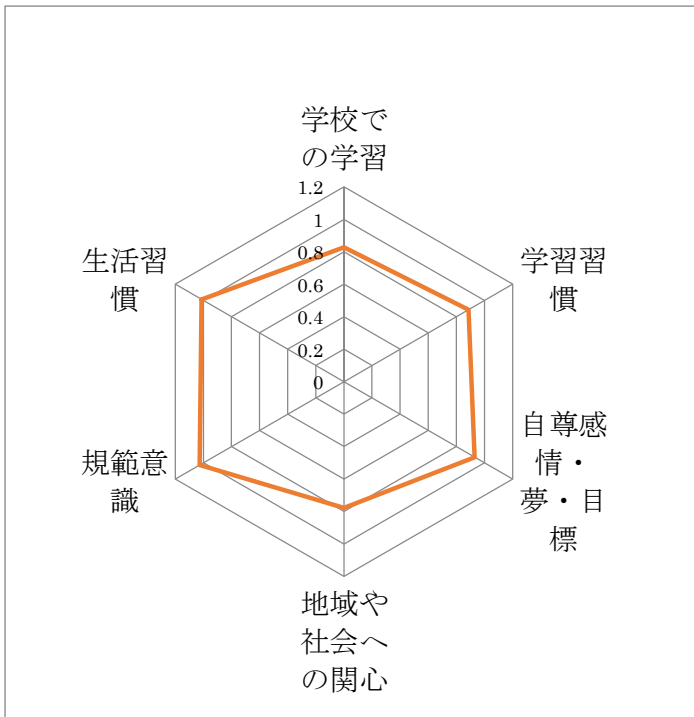
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全体的に全国平均正答率を上回っている。特に学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題や、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題は正答率が高かった。	上回っている
国語B	全体的に全国平均正答率を下回っている。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題の正答率が低かった。	下回っている
算数A	全体的に全国平均正答率を上回っている。特に除法で表すことができる二つの数量の関係を求める問題や、1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題の正答率が高かった。	上回っている
算数B	全体的に全国平均正答率をわずかに下回っているが、メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる問題の正答率が高かった。	下回っている
理科	全体的に全国平均正答率を下回っているが、全国平均に比べて無回答率が低かった。また、電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる問題の正答率が高かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

【質問紙調査の結果分析】



- ・ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童の割合や学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童の割合が低い。さらに授業改善に取り組み、教師の授業力を向上していく。
- ・ 学習習慣について、家で学校の宿題をしている児童の割合は全国平均を上回っている。自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は全国平均を下回っている。家庭学習の充実に向けての取り組みが課題である。
- ・ 学校の決まりを守ったり、毎日同じくらいの時刻に寝ている児童の割合が全国平均を上回っている。
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が低い。生活科や社会科、道徳科などの授業を通して、地域愛を育み、社会への関心を高めていく。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学校で）

- ・ 全学級の授業改善に取り組み、教師の授業力を向上していく。
- ・ 学習補充特設時間を継続して実施する。また、各学年・各学級の実態に応じて、算数を中心に複数教師によるきめ細かな指導を行う。
- ・ 各教科の学習において、友達と話し合う活動を取り入れて、友達と交流しながら学びを深めたり、小中連携の取り組み（ノート交流・話し合い活動の系統性・出前授業）を推進したりしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック（活用編）」を積極的に活用し、宿題以外の勉強時間の増加（自主学習）への意欲を高める。
- ・ 参考になる友達の良い家庭学習ノートなどを掲示し、家庭学習の仕方を具体的に指導する。
- ・ 学校通信・学級通信等を通じて、家庭学習の大切さを発信していく。

4. その他

学力の定着のためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、連携して子どもたちを育てることが必要です。学校では諸活動の見直しや授業の改善を図ります。「子どもひまわり学習塾」「授業力向上ステップアップ事業」の活用など、更なる学力向上を目指します。

ご家庭でも、家庭学習の大切さをご理解の上、ご協力よろしく申し上げます。

